

第 4 回 神戸の都心の「未来の姿」検討委員会 議事要旨

項目	内容
開催日時	平成 27 年 2 月 6 日（金） 9 時 30 分 ～ 11 時 30 分
開催場所	神戸市勤労会館 7 階 大ホール
出席者	29 名（委員 26 名、オブザーバー 3 名）
議事の目的	下記の「将来ビジョンの方向性について検討すべき主な論点」に関して、意見交換を行う。 論点① 神戸らしい眺望景観を守るためのルールづくりについて 論点② 都心居住のあり方について 論点③ 都心内の回遊性向上に重心を置いた交通体系の再構築について
議事の内容	<p>■論点① 神戸らしい眺望景観を守るためのルールづくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物の上層部をデザイン化して、シンボルとするような視点もある。 ・商業業務系のビルに対しては、高さ規制は必要ないのではないか。 ・神戸は港景観が大事である。港湾部は魅力ある力強い建物とし、場所によっては高さ規制を設けても良いと思う。 ・眺望景観の保全が大事で、港側の景観、建物のデザインとしての景観、それらを裏で支える背後地の山としての六甲山の景観という 3 つの視点を束ねる形で考える必要がある。 ・海から、山から、まちなかからの景観のルールづくりが必要。 ・海からも山からも見える高速道路についてどうすべきか考える必要がある。 ・景観は、遠近様々な視点場があり、複数の視点でどのようにコントロールしていくかを今後検討する必要がある。 ・景観についてもエリアマネジメントを取り入れられると良い。 ・港に近い場所では六甲山が見えなくなり、山からも海が見えないところがある。ある程度の高さ規制は必要。 ・景観は価値観にも関わることである。多くの人が美しい絵のような風景を感じる都市づくりが必要であり、それが経済的にも価値を生むことがある。 ・しおさい公園から六甲山が全部見えなければならないというのは、合理的な考え方ではない。建物の高さは、産業との折り合いを考えながらゾーンを考えないと、まちとしての迫力がなくなってしまう。 ・どこまで高さ規制をする必要があるのか。建物の高さ規制よりも、まちなかでの人目線での景観を守ることが必要。 ・どんな高さでも良いということだけは避けたい。高層ビルの場合、住宅系ビルになることが多いため、神戸にとって大事な商業、景観を誰もが楽しめる環境を失う可能性がある。 ・しおさい公園の景観が綺麗という外国の方がおられた。しおさい公園からの景観も大事である。 <p style="text-align: right;">（次頁へつづく）</p>

項目	内容
議事の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸の都心の景観には歴史があり、海と山が近いという神戸らしい魅力を高めるべき。 ・建物高さ規制は眺望ポイントからの高さ規制だけでなく、ゾーンによる規制が必要。ゾーンで高さが揃えば、中景景観の形成・向上にもつながるのではないか。 ・空間の連続性により海と山の近さを感じられるように、近景景観の整備にも取り組むべき。 <p>■論点② 都心居住のあり方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居住には働き方が密接に関係しており、どう働いてどう暮らすかというような、もう一步踏み込んだ都心居住のあり方を議論すべき。 ・高層マンションは入居した瞬間から高齢化が始まる。都心居住については、ある程度のエリアの設定が必要 ・都心部の高層マンションは昼間に誰も居ない等、コミュニティ活動の低下も問題である。 ・不動産業者がマンションを建設するかどうかの判断基準は、投資効率である。都心居住のあり方を考えるには、住む人のニーズを調べるべき。 ・都心居住によって人口が増えることは重要。まちのにぎわいを創出するため、その住民たちがまちを使いこなす取り組みが必要である。 ・ある程度人口を増やさなければ、まちも商業も活性化しない。 ・何十年後かに高層マンションの建替えが必要となる際も、高齢者、若者問わず、継続して住んでもらい、にぎわいを維持できるような方策が必要である。 ・住民と観光客の両者のためにも、都心居住のエリア分けは必要ではないか。 ・日常と非日常の空間をどのようにして折り合いをつけていくか考える必要がある。 ・経済活動と都心居住のエリア分けは必要。エリア毎に規制と誘導を使い分けて、各エリアの特色を作り出すべき。 ・景観面では、1階や2階部分を店舗にするような工夫が必要である。 ・神戸の都心は各エリアに特色があり、モザイクの魅力がある。都心居住に関しても、エリア毎に規制と緩和を組み合わせ、モザイクの魅力をつくるべき。 ・多様な機能が集まる都心では、融合、統合などがキーワードであり、その機能の組み込み方が課題である。 ・都心居住というライフスタイルの中で、新たに学校の整備等が必要かというやや疑問である。 <p style="text-align: right;">(次頁へつづく)</p>

項 目	内 容
議事の内容	<p>■論点③ 都心内の回遊性向上に重心を置いた交通体系の再構築について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姫路駅前でのトランジットモールは商店の搬出入等の問題が多く、実現まで時間を要した。そのような経緯を踏まえて、神戸ではトランジットモールを推進すべきでないを考える。 ・フリッジパーキングから循環バスへの接続は、乗継ぎの抵抗感が大きい。 ・3層ネットワークも必要であるが、基本的には地上レベルでの回遊性の向上を検討すべき。 ・歩行だけで対応できない場合には、基本的にバスでの対応が良いと思う。柔軟かつ頻繁に移動・回遊できる交通システムがあればよい。 ・L R T、B R Tは、費用対効果を十分考慮した検討をすべき。 ・観光客よりも、都心をよく訪れる住民の視点で交通体系は考えるべき。 ・ループバスだけでなく、既存路線の延長も検討してみてもどうか。 ・都心部への車の乗入れを規制する場合は、荷捌き等を考慮して、時間を限定すべきではないか。 ・質の高い歩行者空間の整備が必要。 ・交通体系の再構築に対しては現状の改善だけでなく、戦略が必要。 ・公共交通を使いたいと思わせるような乗り物のブランド化等、回遊したいと思わせる仕掛け、工夫が必要。 ・自転車の走行空間やコミュニティサイクルの整備も回遊範囲を広げる工夫として大事。 ・外部からの輸送と都心内の回遊の使い分け、乗換えや料金のシームレス化等を図ることも有効である。 <p style="text-align: right;">以 上</p>